

製品・サービス動向-国内

■日商エレクトロニクス：Zoom の SaaS 型ビデオコミュニケーションプラットフォームを月額 1,480 円から提供開始

(3月19日)

日商エレクトロニクス株式会社 (<https://zoom.nissho-ele.co.jp/>) (東京都千代田区) は、2019年2月28日に Zoom Video Communications 社 (米国・カリフォルニア州、日本法人：ZVC Japan 株式会社) と販売代理店契約を締結し、SaaS 型ビデオコミュニケーションプラットフォームの提供を開始した。

Zoom の特徴は、誰でも簡単につかひこなせる、説明書いらずの優れたユーザーインターフェイスを備えているのが特長。PC・モバイルからの接続や「Zoom Rooms」会議室からの接続のほか、SIP/H.323 対応会議システムとの接続にも対応し、Windows・Mac・iPhone・Android などの使い慣れたデバイスからワンクリックで会議を開始できるようになっている。

また会議は今までにない安定した通信を実現しているという。Zoom 独自の技術で、モバイル回線でも高品質な通信を提供するとしている。

費用については、「Zoom Meeting」が 1,480 円/月～(1 ライセンス、会議主催者単位)、「Zoom Rooms」が 4,980 円/月～(1 ライセンス、会議室単位)、「H.323/SIP コネクター」が 4,980 円/月～(1 ライセンス)、「Zoom Video Webinars」が 4,000 円/月～(1 ライセンス)となっている。

なお、H.323/SIP コネクターは、Zoom Meeting と SIP/H.323 対応テレビ会議システムを接続させるためのもので、同時接続の数量分必要となる。また、Zoom Video Webinars では最大 10,000 人まで対応可能と

なっている。上記いずれのライセンスとも最低 1 年間の契約が必要となっている。

日商エレクトロニクスでも、2018年5月から Zoom のプラットフォームを活用している。導入後は従来製品に比べて会議の開催数は 4 倍に増加、ユーザから IT 部門への問い合わせは数十件/月からほぼゼロ件になったという。

一方、2018年に三菱 UFJ ニコス株式会社 (<http://www.cr.mufg.jp/>) (東京都千代田区) に Zoom を導入。同社ではすでにその効果を高く評価し、現在利用している採用活動・社員研修・海外拠点とのミーティングだけでなく、広範な業務での活用を予定しているという。

本プレスリリースにおいて、Zoom Video Communications 社は日商エレクトロニクスを日本市場の新しいリセラーとして歓迎するとのコメントを出している。緊密に連携し、日本の顧客を対象に Zoom のビデオ ファースト コミュニケーション プラットフォームの展開を続けていくとしている。

■エイネット：2秒でつながる無料テレビ電話/無料 Web 会議システム「DD」を発表

(PR TIMES：3月28日)

エイネット株式会社 (<https://www.anets.co.jp/>) (東京都千代田区) は、相手に会議名を伝えるだけで、すぐに利用が開始できるマルチデバイス対応のテレビ電話/Web 会議「DD (ディーディー)」を 4月1日より提供開始する。

DD はダウンロードやインストールが不要で、ユーザが URL (<https://dd-talk.net/>) の後ろに好きな文字列

を付けるだけで、自分だけの会議室を作ることができる。その URL が会議名となり、相手にそれを伝えるだけで、スマートフォン・タブレット・PC など使用するデバイスを問わず、テレビ電話による通話や Web 会議を行うことが可能になる。

最大 6 人、1 回 40 分までのテレビ電話/Web 会議が無料で利用できるが、有料版では最大 12 人まで利用制限なしで利用することが可能となっている。

インサイドセールスや少人数のセミナー、採用面接などさまざまなビジネスシーンでの利用を想定している。

無料版は WebRTC 技術による PtoP 方式でサーバーなどのリソースを使わない仕組みとすることでコストを減らし、全世界での快適な利用を提供する。有料版は専用のサーバーを使用する SFU 方式を採用し、高い安定性と録画機能（近日対応予定）などの利用を可能にしている。

■フォースメディア：65 インチインタラクティブタッチスクリーン「X6」の販売を開始、Web 会議や電子ホワイトボードなどを活用したコラボレーションをこの 1 台で実現

(3 月 25 日)

株式会社フォースメディア (<https://www.forcemedia.co.jp/>) (東京都品川区) は、現在販売中の X シリーズ (X5、X7) に続き次世代 X シリーズとなる、65 インチインタラクティブタッチスクリーン「X6」の販売を開始する。

X シリーズは、大型タッチスクリーンに 2 台のカメラ、マイクアレイ、30W(15x2)ステレオスピーカー、さらに Windows PC を内蔵したオールインワンモデル。Newline Interactive 社製。

オフィスの会議室や研究室などに設置し、Web 会議

や電子ホワイトボードなどを活用したコラボレーションをこの 1 台で実現することができる。新モデルの X6 は、4K パネルを採用したほか、ハードウェア、ソフトウェアが大きく進化しているとフォースメディアでは説明する。

製品の特長は次の通り。

(1) 圧倒的にクリアでシャープな画質の 4 解像度タッチパネルを搭載している。

(2) 液晶パネルと保護ガラスの間に空気層がない「オプティカルボンディング構造」のため反射が少なく、ガラスは 2mm と従来より薄くなり強度が増している。

(3) IR (赤外線遮断方式) は InGlass テクノロジーを採用し、ペンの太さを認識することができる。

(4) Android で 10 ポイント、内蔵の Windows PC で 20 ポイントまでのマルチタッチに対応している。

(5) ワンタッチでホワイトボードを機能させることができる。

(6) パソコンやタブレットなどの画面をタッチスクリーンにワイヤレスで共有できる (ワイヤレスプレゼンテーションソフトウェア「Newline Cast」)。

(7) タッチスクリーンで行っている画面を、ユーザの手元のパソコンやタブレットなどに配信できる。

(ワイヤレスブロードキャスティング Newline Broadcat)

(8) 使い慣れた Windows を内蔵しているため、トレーニングなしで利用できる。また Windows で利用可能なほとんどの UC ソフトウェアと互換性がある。

Newline Interactive 社 (<http://www.newline-interactive-apac.com/ja/>) は、創始者の Chris Bradford と Kevin Wang により 2012 年に設立され、最先端の技術と優れたユーザーエクスペリエンスを融合し、デザインや機能のみではなく、誰もがシンプルに使用でき、最先端の技術を楽しむことができる製品を製造販売している。

■ハッチ・ワーク：Web 会議の場所に悩む方へ、「ひとり会議室」を格安予約なしで一時利用が可能 100 円/30 分～

(3月20日)

株式会社ハッチ・ワーク (<https://hatchwork.co.jp/>) (東京都港区) は、貸会議室アットビジネスセンターを“Web 会議に最適な相席空間”として提供する「ひとり会議室」を開始した。

本来は予約を必要とした会議室ではあるが、30 分 100 円～の料金で、Wi-Fi・電源・複合機を予約なしで一時利用できるもの。

ハッチ・ワークによると、世界的に Web 会議を利用するビジネスパーソンが増え、働き方改革による増加するフリーランサーやテレワーカーにとって場所にとらわれず打ち合わせが可能な Web 会議は必要不可欠なツールという。そういった中「カフェで Web 会議ができない」と困っている“Web 会議場所難民”に対して、同社では、駅前一等地にあり、Wi-fi、電源・複合機を備えている貸会議室アットビジネスセンターを、30 分 100 円～という格安料金で相席にて提供する。

同社によると、まずは東京・横浜・大阪で開始した。利用者の反響が良いことから、拠点を 6 月までに 21 施設に増やす。なお、全ての施設で展開すると、一日あたり 210 名、年間約 75,000 名の利用が見込まれるとしている。

遊休不動産に IT と独自オペレーションで価値を創造する不動産テック企業。活かしきれていない不動産の用途を再定義し収益最大化に必要なオペレーション技術とサービスを開発提供している。実績としては、日本最大規模の月極駐車場探しポータルサイト「アットパーキング」取り扱い 22 万 6 千箇所、貸会議室「アットビジネスセンター」累計運営実績 291 部屋 7484 席などがある。

■ヤマハ：スピーチプライバシーシステム「VSP-2」を発売、オフィスなどで会話や Web 会議のプライバシーを守り、仕事に集中できる場所を提供

(3月19日)

ヤマハ株式会社 (<https://jp.yamaha.com/>) (静岡県浜松市) は、聞かれたくない会話を独自の情報マスキング音などでカモフラージュし、会話のプライバシーを守る、スピーチプライバシーシステムの新モデルとして「VSP-2」および専用スピーカー「VSP-SP2」を 6 月に発売する。



ヤマハ スピーチプライバシーシステム
「VSP-2」 (W) ホワイト (ヤマハ)



ヤマハ スピーチプライバシーシステム
「VSP-2」 (B) ブラック (ヤマハ)

ヤマハは会話の中に含まれる個人情報（スピーチプライバシー）についても配慮を求める社会的ニーズの高まりを受けて、2011 年に主に薬局や病院などの小規模エリアやパーソナルスペースに向けて、初代モデル「VSP-1」を発売した。

一方、オフィスでもオープン化や Web 会議の普及により、マスキングのニーズが高まっているという。

そこで、このたび VSP-2 をヤマハは発売。アンプとスピーカーが分離したセパレート型を採用し、手のひらにのるコンパクトなサイズで 1 台 0.17kg と軽量なため、壁や天井などへ簡単に取り付けられるようになっている。

また、専用スピーカー VSP-SP2 によって最大 4 台まで拡張が可能であるとともに、コンパクトながら広指

向角のため、パーソナルな小規模エリアから中規模エリア（約 100 m²のオープンスペースなど）まで、広いエリアに均一な音圧分布を実現する。

VSP-2 は、遮音性能が不足している会議室間や天井下に開口部を有する間仕切り壁、オープンな打ち合わせスペースなど、オフィス内のさまざまなシーンにおいて、簡易施行によるスピーカーの設置や情報マスキング音の調整により、最適な音環境ソリューションを提供する。

具体的には、会議室間やオープンスペースの打ち合わせ場所などから周囲にもれる会話の内容を分りづらくし、安心して打ち合わせができる環境を作る。また、集中作業している人に対して、周囲から入ってくる会話の内容を分かりづらくすることで、仕事の生産性を向上させる効果がある。

さらには、静かすぎて人と話しづらい環境に、マスキング音を流すことで会話を促進し、コミュニケーションを円滑にすることも可能だ。情報マスキング音を調整することで、森の音や川のせせらぎといった自然の中にいるような雰囲気ですらリラックスした会話を楽しんだり、人の声を中心としたカフェのような喧騒感中で気兼ねなく話せたりする環境を演出することができる。

ヤマハのスピーチプライバシーシステムは、人の会話音声から合成したヤマハ独自の「情報マスキング音」に、川のせせらぎなどの「環境音」、楽器音などの「演出音」を組み合わせることで、高いマスキング効果と心地よい音空間を提供するとしている。

環境音および演出音は、それぞれ 4 種類の中からシーンに合わせて自由に選択と組み合わせが可能。VSP-2 では、新たに情報マスキング音の比率調整機能が加わり、設置環境に合わせた最適なマスキング音の提供を実現した。

VSP-2 は、コントロールユニット 1 台とスピーカー 2 台入りの VSP-SP2 がセットになったモデル。本体の

色については、コントロールユニットは白のみだが、スピーカーについては白と黒が用意されている。価格は、VSP-2 が 178,000 円（税抜）で、VSP-SP2 が 28,000 円（税抜）となっている。なお、取り付け費はふくまれていない。

ヤマハとしては、2 モデル両色合計で、2,000 台/年の販売を計画している。

■TFF フルーク：ハイパワーPoE 規格に対応する、ケーブル検査用テスター「MicroScanner PoE ビューアー」の提供開始

(3月19日)

株式会社 TFF フルーク社 (<https://jp.flukenetworks.com/>) (東京都港区) は、新たなハイパワーPoE (Power of Ethernet) 規格に対応する、ケーブル検査用テスター「MicroScanner PoE ビューアー」(マイクロスキャナー・ピーオーイー・ビューアー) を 3 月 22 日より提供開始する。



MicroScanner PoE ビューアー (写真左・左下、TFF フルーク社) は、2018 年 9 月に承認された新たなハイパワーPoE 規格 802.3 bt を含む PoE デバイスの迅速な設置とトラブルシューティングをサポートすることができる。



イーサネット・アライアンスの指定に従い、スイッチから得られる情報を元に利用可能な電力のクラスを表示することで、現場作

業者がスイッチに十分な電力が供給できる能力があるかどうかを簡単に知ることができるようになっている。その手ごろな価格により、すべての技術者が PoE 敷設現場で携帯することが可能になるという。

PoE 配線システムの迅速なトラブルシューティングを実現するとともに、非 PoE 対応機器を設置するための一連の完璧なツール群も備えている。ケーブル配線の問題を迅速に追跡できる。また、従来のケーブル検査用テスターと異なり、主要なテスト結果をすべて一つの画面に表示することもできるため、テスト時間とユーザーエラーの低減も行えるとしている。

MicroScanner PoE ビューアーの価格は、83,000 円～（税別）。初年度における売上目標として 1,000 台を目指しているという。

TFF フルーク社は、企業ネットワークの構内 LAN からデータセンターまでメタル配線から光ファイバー配線ネットワーク・インフラの性能試験用ケーブルテスターを幅広く提供している米フルーク・ネットワークスの日本法人。

ビジネス動向-国内

■メディアプラス：大画面タッチパネルディスプレイの製造および販売を行う Avocor 社（アボコー、米国）と国内販売代理店契約を締結

（3月12日）

株式会社メディアプラス（<https://www.mediaplus.co.jp/>）（東京都千代田区）は、インタラクティブディスプレイ、大画面タッチパネルディスプレイの製造および販売を行う Avocor 社（<https://www.avocor.com/>）（アボコー、米国）と国内販売代理店契約を締結した。また、メディアプラスのデモルームにてインタラクティブディスプレイ「Avocor F シリーズ」のデモンストレーションを開始

した。



Avocor インタラクティブディスプレイ F シリーズ
（メディアプラス）

Avocor F シリーズは、Windows OPS（スロットイン型コンピュータ）内蔵の大画面タッチパネルディスプレイ（インタラクティブディスプレイ）。65 インチ・75 インチ・86 インチの 3 モデルがあり、いずれも 4K に対応している。

すでに販売終了となった「Microsoft Surface Hub（第一世代）」の代替品としても世界中で使用されている。Windows ベースのコラボレーションアプリはもちろん、「Zoom」や「Google Hangouts meet」「StarLeaf」などのビデオアプリを使用することも可能となっている。使いたいアプリにワンタッチでアクセスできる「Quicklaunch（クイックローンチ）」アプリケーションにより、企業のニーズに合わせたカスタマイズとユーザビリティを実現している。

メディアプラスによると、Avocor の製品は「Microsoft Office 365」と親和性が高いという。2019 年発売予定の「Surface Hub 2」は 50.5 インチのみの予定のため（大画面オプションには対応しない）、Avocor は世界のユーザの声を聞き、Surface Hub や他の Teams 用デバイスと補完し合うことを目指しているという。

■ブイキューブ：xSync Prime Collaboration がリアルウェア社の防爆認証スマートグ ラスと連携

(3月18日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、拠点間情報共有システム「xSync Prime Collaboration」と、RealWear (リアルウェア) 社 (<https://www.realwear.com/>) (米国・ワシントン州) のスマートグラス「HMT-1Z1」との連携による新ソリューションの実験的な提供を開始する。

HMT-1Z1 は、防爆対応の単眼スマートグラス。国内防爆認証 THIS Zone-1 に対応し、操作は1つのボタンと音声認識で行う。マイクはノイズキャンセリング機能付きでスピーカーとカメラなどを装備している。



今回の連携
では、HMT-
1Z1 (写真左、
ブイキューブ)

の音声制御操作に対応するカスタマイズを実施し、ボタン操作などを行うことなく、xSync Prime Collaboration が利用できるようにした。従来の xSync Prime Collaboration の特徴である、資料共有、映像書き込み、写真送信などを活用しながら、遠隔拠点間のコミュニケーションが可能になる。

石油精製や石油化学、化学合成プラントなどの作業現場では、可燃性ガスや可燃性液体が空気と混合して燃発性のガスになり、それが電気火花や高温の物体などの点火源に触れると、爆発や火災が起きる可能性が高まる。そのため、このような作業場所で使用する機器にも爆発を防止する防爆の構造が求められる。

こうした中、ブイキューブは、遠隔地間のグループワークを最適化するブイキューブの xSync Prime Collaboration と、危険区域の作業現場利用に最適化したリアルウェア社の HMT-1Z1 の連携により、グルー

プワークの可能性をより危険な作業をとまなう現場にまで拡大し、フィールドワーカーの働き方改革に貢献する。

本ソリューションは、今後の本格提供に向けた実験としての提供を行っており、既に石油化学・合成樹脂メーカーの防爆必須の作業エリアで採用が決定しているという。

ビジネス動向-海外

■プラントロニクス社とポリコム社：新会社 Poly として再始動

(米国プラントロニクス：3月18日、
DreamNews：3月22日)

2018年にポリコム社を買収したプラントロニクス社(米国・カリフォルニア州)は、新しいテクノロジーカンパニー「Poly (ポリー)」(<https://www.poly.com/jp/ja>)として再始動することを3月18日に発表した。

Poly は、人間のコミュニケーションおよびコラボレーションにおけるエクスペリエンスに重点を置き、遠隔地とのコミュニケーションをあたかも対面しているかのように豊かで自然なものにすることを目指す。

「現在、人々のコミュニケーションおよびコラボレーションの可能性は無限に広がっている。AI・機械学習・および新技術などの進展により、接続をした後、Poly の技術を参加者が意識することなく会議に集中することが将来実現できるようになる。」(Poly 社長兼 CEO Joe Burton 氏)

この実現のために、プラントロニクスとポリコムがこれまで長年培った音声と映像の専門技術をもとに、今後 Poly は4つの異なる分野において技術革新に取り組んでいくとしている。

(1) ワークスペースを直感的に誰もが有効利用できるようにする。現在のオープンなオフィス環境では、

周囲の騒音（distracton and noise）などにより従業員の生産性および満足度が低下している面がある。Polyはそういった環境における騒音を解消するソリューションや、ハドルルームで従来の役員室と同等の性能を発揮するソリューションなどを提供している。

（2）個々のやり方に合ったコラボレーションをサポートする。従業員は1日に3つ以上のコラボレーションソリューションを使用することがあり、それら全てのソリューションを使用できる端末を必要としている。この拡大するニーズを満たす幅広いソリューションラインナップを提供している。

（3）現代の従業員用のソリューションを「モバイルファースト」の概念に基づいて設計する。個人のスマートフォンを業務用電話機として使用したり、私生活の予定と仕事の予定が混在する1日を過ごしたりなど、従業員は自らの生活パターンに合わせて使用できる音声技術およびビデオ技術を必要としている。どこでも生産性を高めることを可能にする高品質な各種ツールを提供する。

（4）ITの管理者やユーザが各種デバイスを最大限に有効活用できるようにクラウドサービスを進化させる。IT管理者にとって、どこで何が使用されているかを把握することがますます困難になってきている。Polyは使いやすかつ管理しやすいソリューションを提供する。

各種ユニファイドコミュニケーションプラットフォーム上で接続可能なスマートエンドポイントの幅広いラインナップをベースに、距離の問題の解消にとどまらず、現代のワークスペースにおける、ノイズなどの周囲の環境音、操作性や運用面などでの複雑さといった問題をも解決するソリューションを提供している。

導入・利用事例-国内

■ブイキューブ：「ODAKYU 湘南 GATE」内に新たにオープンする「湘南 小田急 住まいのプラザ」にテレキューブ設置

（3月22日）

株式会社ブイキューブ（<https://jp.vcube.com/>）（東京都港区）は、藤沢駅南口でリニューアルオープン（2019年3月）する「ODAKYU 湘南 GATE」内に、新たに開設される「湘南 小田急 住まいのプラザ」（小田急不動産株式会社）に、防音型のスマートボックス「テレキューブ」を設置することを発表。

テレキューブは、周囲の人に聞かれることなく不動産や相談などプライベートの相談ができるスペースとして、また、来訪者が空き時間を有効活用して仕事や打ち合わせができるスペースとしての活用が予定されている。



<「湘南 小田急 住まいのプラザ」外観>

<テレキューブ設置の様子>

住まいのプラザ外観、テレキューブ設置の様子

（ブイキューブ）

住まいのプラザは、住まいや暮らしに関する要望・相談に応えるワンストップ・ショップ。専門家による無料相談デスクを開設し、地域団体と連携したイベント・セミナー開催のほか、店内にコワーキングスペースを設ける。

来訪者が自由に使えるコワーキングスペースにテレキューブ（2人用）を設置し、セキュアなワークスペースを提供する。コワーキングスペースの利用者や住まいのプラザに相談に訪れた人が隙間時間を利用

して仕事や打ち合わせができるほか、将来的には、各種相談に応じる専門家とテレキューブを Web 会議でつなぎ、専門家が遠隔でより柔軟に相談に応じられる環境の実現を目指す。



<左:テレキューブ(1人用)、右:テレキューブ(2人用)>

(ブイキューブ)

市場動向-国内

■シード・プランニング:国内のビデオコミュニケーション市場の将来展望に関する調査を実施。国内市場は 2019 年に 508 億円の市場と予測。2018 年比 101%増。

(3月20日)

株式会社シード・プランニング (<https://www.seedplanning.co.jp/>) (東京都文京区) は、国内のビデオコミュニケーション市場の将来展望に関する調査を実施し、このほど3月20日新刊「2019ビデオ会議/Web会議の最新市場とクラウドビデオコミュニケーションの現状」としてその結果をまとめたと発表。

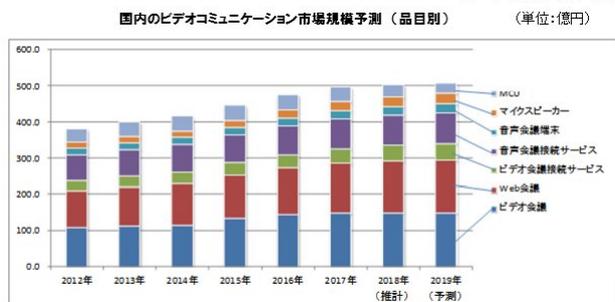
同社がビデオコミュニケーションの調査を開始してから16年になる。この16年間でVC業界は大きく変化した。それを受けて今回の調査はビデオ会議/Web会議/音声会議の製品動向・市場動向・企業動向とビデオコミュニケーションに関連するクラウドサービス(グループウェア・ビジネスチャット・オンライン商談システムなど)の動向をまとめた。また取材企業へ、

中小企業、AI、働き方改革などについてのコメントも掲載した。調査結果のポイントは以下のとおり。

国内のビデオ会議・Web会議・音声会議などを含めたビデオコミュニケーション市場は、2019年に508億円の市場規模と予測、これは2018年から比べ101%の伸びになる。



(シード・プランニング作成)

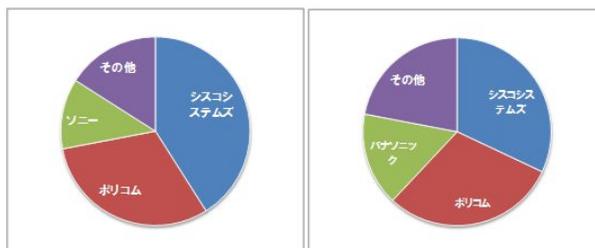


(シード・プランニング作成)

2018年の国内ビデオ会議市場は150億円(推計値)。メーカー別シェア(推定)は、台数・金額ともに、1位がシスコシステムズ、2位がポリコムとなっている。

メーカーシェア トップ3:台数

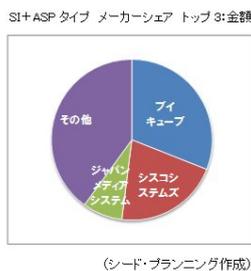
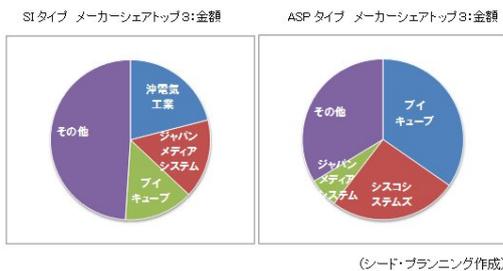
メーカーシェア トップ3:金額



(シード・プランニング作成)

ビデオ会議市場 (シード・プランニング)

2018年のWeb会議システムの販売金額(推定)は、SIタイプが29億円、ASPタイプが115億円で計144億円。

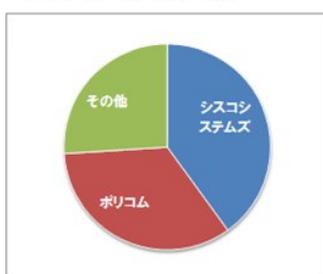


Web 会議市場 (シード・プランニング)

メーカー別の金額シェアでは、SIタイプでは、1位が沖電気工業、2位がジャパンメディアシステム、3位がブイキューブ。一方、ASPタイプでは、1位がブイキューブ、2位がシスコシステムズ、3位がジャパンメディアシステム。なお、上位2位で5割以上のシェアとなっている。

多地点接続装置 (MCU) の市場規模は 2018 年で 33 億円と推定。シスコシステムズとポリコム の 2 社で 7 割以上のシェアを占める。

2018年のメーカーシェア:金額



(シード・プランニング作成)

MCU メーカーシェア (シード・プランニング)

調査方法は、直接面接および電話取材、オープンデータの収集によって行った。また市場規模およびメーカーシェアは関連企業へのヒアリングにより作成

した。調査期間は 2018 年 12 月 1 日から 2019 年 3 月 15 日。

発行日は 3 月 20 日。A4/312 ページ。販売については、書籍版または PDF 版で 151,200 円 (税込)。書籍 +PDF セット版で 194,400 円となっている。

PR

■ヤマハ株式会社



ユニファイド
コミュニケーション
スピーカーフォン YVC-200

<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/yvc-200/index>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報 (4月~5月)

「災害現場の今を共有出来ていますか? 災害発生時の混乱時、意思決定のスピードと質を向上」、「働き方改革セミナー 失敗しない「Web 会議」「テレビ会議」選び方徹底解説」「<スマートグラス体験セミナー>ハンズフリーで現場作業を遠隔支援!」「2分でかんたん動画作成 社内動画活用で働き方改革を推進!」など

会場 (東京・大阪・名古屋・Web セミナー)

詳細・申込: <https://jp.vcube.com/event/all>

<海外>

■LiveVideoStackCon

日時: 4月19日~20日

会場: 中国・上海、上海光大会展中心国際大酒店

主催: LiveVideoStackCon

詳細・申込: <http://sh2019.livevideostack.com/>

※マルチメディア技術の分野におけるオーディオ&ビデオテクノロジーカンファレンス。

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

■PDFファイル版（1号毎PDFファイル）

>2003年～2018年最新号（1号毎PDFファイル）

<http://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

■電子ブック版（複数号まとめているのもあります）

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2017年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

CNAレポート・ジャパン 2019年3月31日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp